第３０７号　　２０２５年6月２５日

ＪＲ東日本労働組合

秋田ジャーナル

ＪＲ東日本労働組合
秋田地方本部

発行者　佐藤　俊樹
編集者　教　宣　部

秋田市中通６丁目７－９　秋田県畜産会館１Ｆ

しずかと語る会 2025 IN アルヴェ！

てらたしずか参議院議員は６年前に初当選しコツコツと住民との対話を行い、144回目の「しずかと語る会」が秋田市「アルヴェ」にて行われました。当日はあいにくの雨模様でしたが、多くの市民が駆けつけてらたしずか議員との対話と交流を行いました。語る会の司会は立憲民主党山崎宗雄顧問が努め、沼谷純秋田市長（挨拶別掲）、小川純連合秋田会長、櫻田ゆうこ秋田県議会議員が来賓として駆けつけました。

彼女自信の想いや国会における活動報告も交え、秋田市から２期目当選に向けて確かな支援の広がりと必勝のホルテージを上げました。

『政治とは生活である。』

てらたしずか参議院議員の挨拶要旨！

議員になって沢山の気づきがあった。「政治とは生活である。」ということです。秘書時代ではきちっと分からなかったが、皆さん含めて日常の一つひとつの中で生じる困難の全てが政治で取り上げられる。多くの陳情があり、道路の課題、自治体の財源の課題、経済団体の要望と、実に様々でどれも必要な要望です。実現に向けて努力してきました。ただ、政治が取り扱う課題は、陳情に表れ来ないところ、日々の生活の中にあるべきではないか？物価上昇は令和の米騒動、あらゆる物価上昇は個人の節約ややり繰りでは限界を超えている。生活が苦しくなる一方です。収入に占める食費の割合「エンゲル係数」が44年ぶりに高い数字となっていて、多くの方が収入の３割を食費に費やしています。食べ盛りのお子さんがいる世帯は大変です。特に、年金で生活している方々、そして低所得の方々が生活が追いつめられています。日々の生活を支えている主食の米の値段も米どころ秋田であっても変わってしまった。お米を高くて買えないと思い出すことがある。私が小学校の頃、我が家も豊かではなかった。月末になると今月は葬式がありお金が足りなくて「しずかの通帳からお米を買うのに貸して頂戴」と言って5,000円引出してお米を買って、月末に父の給料日に通帳に返してくれた。米を買えないない、難儀する家があることを私自身の経験に照らしても我が家は家庭内でやり繰り出来たから良かったたが、民間団体が支援していますが、「助けて下さい」と外に向かって言うことの難しさ、その尊厳が損なわれる辛さがあることを政治の中にいる者として想いを馳せなくてはいけない。一方で米農家からは、1年前までは米価が安すぎて農業を続けていけない。先祖代々の農地だが守っていきたいが、赤字では続けられないんだ。こんな事では子供に継がせられない、というお声を頂いてきた。まさしく政治が生活者の声にも生産者の声にも鈍感で対策を怠ってきたことは明らかです。

【沼谷秋田市長】

・今までの選挙が通用しない。一人ひとりの気持ち行動が世の中が変わっていくことなんだ。秋田市は法定受託事務が多い。仕事や制度が複雑だ。国には柔軟に見直してほしい２万円給付金は事務とマンパワーが大変で自治体としてはちょっと如何なものか？地方の実態を考えてやってほしい。地方は少子高齢化と人口減少、政府は地方創生と言ってるが制度の不均衡があり、東京都の水道料金無料には秋田は勝てない。市の仕事は「福祉」「住民サービス」ですので、お力添えをお願いしたい。